

Chant des Gondolier

Charles Acton

ゴンドラ漕手の唄

シャルル・アクトン作曲

作者は 1829 年 8 月 25 日ナポリに生まれ、1909 年 2 月 2 日ポルティーチに逝いた純然たるイタリアの作曲家であるが、本名、曲名とも仏語に終始しているのは奇妙である。

主としてピアノ曲に名声を得ているが、オペレッタ、合唱曲、室内楽の他、当時勃興したマンドリンにも多くの佳曲を残した。

生涯ナポリに定住して活動、流石、南欧の明るい甘美な旋律は人々の愛好するところとなったが筆者などもその一人である。

同名の曲にメツァカーポの作品も親しまれているが、原曲に楽器を加えて弾いてみると、澎湃と興隆した当時のマンドリン音楽を想起し、メッカとも云うべきフィレンツェを中心に優れたマンドリニストが輩出、ついには富めるも貧しきも、老いも若きも、タペともなれば楽器を抱えて石畳の上にくり出して奏でたという様子を彷彿する。

時勢は移り代わっても人の心をそれだけ捉えたものがあるのは否めない。

追加資料

遺稿

中野二郎編著

「マンドリン ロマンの薫り」より